

Contents 目次

- 特集1:初めてのドキュメンテーション園内研修実施へ～いるべ保育園の始めかた
- 特集2:実践!ドキュメンテーション
「自分や子どもの成長を感じるのが醍醐味」東二番丁幼稚園の例
- コラム:保育者からの贈り物

特集1:初めてのドキュメンテーション園内研修実施へ～いるべ保育園の始めかた



お話をうかがった先生:

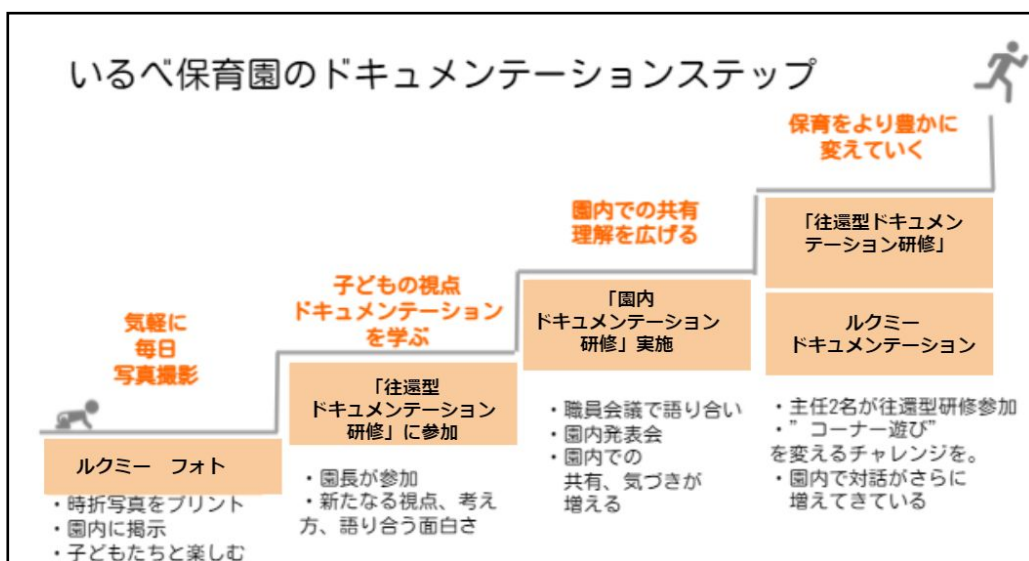
社会福祉法人JOY明日への
息吹

いるべ保育園 古森先生

園児数138人。自然に囲まれた環境を生かし、田植え体験など

五感を使って豊かな感性を育てる保育を実施。保育理念は子育て親育て。

往還型ドキュメンテーション研修に参加されたいるべ保育園。研修参加前と参加後では、どのような変化があったのでしょうか。初めてのドキュメンテーション園内研修を成功させるまでの道のりとあわせて、研修にご参加いただいた古森先生に伺いました。



ドキュメンテーションを取り入れて保育の質を上げたい!と研修に参加

元々いるべ保育園では、普段からルクミーフォトで子どもたちの普段の様子を撮影し、たまに写真にコメントを添えた手書きのポートフォリオを作成する所までは行なっている園様でした。

そんな中、園長先生が大豆生田先生のドキュメンテーションの研修に参加され「もっと保育にドキュメンテーションを取り入れ、保育の質を向上させたい。」という考えを持つようになったものの、なかなかその一歩が踏み出せない。そんな葛藤を抱えていらっしまったそうです。

そこで、園としてユニファの福岡市実証実験(※)に応募し、主任である古森先生が「往還型ドキュメンテーション研修」に参加して下さる事になりました。

※「福岡市実証実験」とは、質の高い保育の実現のために有効とされている写真付き記録(ドキュメンテーション)を保育現場の負担を増やさずに実施していくための実証実験です。

研修を受け「これは園でもやっていきたい!園内研修にも取り入れていきたい!」と感じた古森先生は、現場で無理なく楽しんでドキュメンテーションに取り組んでいくために、次の3つのポイントを意識して、園内研修実現へ向けて、動き出しました。

まず1つ目は、「いきなり研修を実施！」ではなく、職員会議でドキュメンテーションの取り組み良さを語り続け、やりたくなる土壌を作ってこられたことです。

「往還型ドキュメンテーション研修」に参加した後、古森先生は、自園の保育者の先生がたに、まずはドキュメンテーションに取り組むことが楽しいことで、保育にも良さそうと思ってほしい、興味・関心が育ってほしいと考えました。

そこで、いきなりドキュメンテーションの園内研修をやる、という提案はせず、実施にむけて職員会議の中で少しずつ話題に出すことで、興味関心を育て、楽しく研修に参加していけるような土壌をつくっていくことにしたとおっしゃいます。

2つ目は、研修で使用するドキュメンテーションの形式は、自分が作りやすい方法でOKとし、誰もが参加しやすくなるようにしたことです。

保育者の中には、パソコンが得意な先生と、苦手意識をもつ先生がいたそうです。

そこで、あえてパソコンや手書きなどと形式を指定せず、好きなやり方でドキュメンテーションつくってよいとして実施。すべての先生がご自分の得意に応じて参加しやすいよう、配慮をされていました。



3つ目は、先生同士の話しやすさを重視して、研修時のグループはクラス単位にしたことです。

研修参加者が全員クラスに所属している先生だったため、制作するドキュメンテーションは、クラスの活動や子どものことになりそうであること、また、ドキュメンテーションをみんなの前で発表するのは不安がある様子がみられたので、日頃一緒に仕事をしている先生同士だと話しやすいのではないかと考えました。

その結果、安心して自分の意見や考えを話すことができ、「ドキュメンテーション」を通じて対話が盛り上がったといいます。

【園内で研修を成功させる3つのポイントまとめ】

- ①いきなりドキュメンテーションの研修を実施！ではなく、職員会議で取り組む良さを語り続け、やるための土台を作ってきた
- ②ドキュメンテーションの形式は、自分が作りやすい方法でOKとし、誰もが参加しやすく
- ③先生同士の話しやすさを重視して、グループはクラス単位で実施

いる保育園では古森先生が往還型ドキュメンテーション研修に参加されるまでは、「ドキュメンテーション」という言葉も浸透しておらず、どのようなものなのか園内で理解できている状態ではなかったといえます。

上記3つのポイントからは、初めて園で導入するにあたり、園内の素地づくりのステップや、実施の際の心理的ハードルを下げ、安心して誰もが参加できることが、成功させるためには欠かせないことがわかります。

一初めてのドキュメンテーション園内研修で見えてきた、子どもや先生の個性

実際に園での実施の様子は、先生同士も「日頃忙しくて子どものことを話す時間がなかなかとれないので、ドキュメンテーションで子どものことを話せたのがとてもよかった」という声が多く聞かれたそうです。

古森先生も、以下のような発見があったといえます。

- ・ドキュメンテーションを通して、先生の個性もたくさん溢れていた
- ・子どもたちがカメラを意識せずに、夢中になっている姿が多く写されていたのが、とても印象的

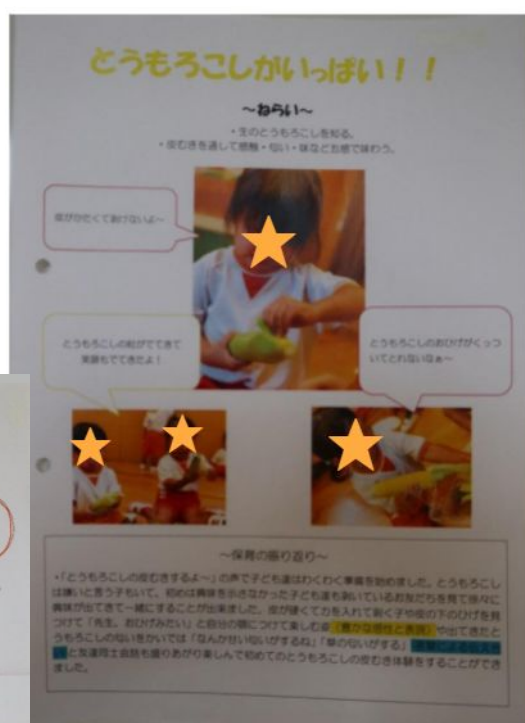
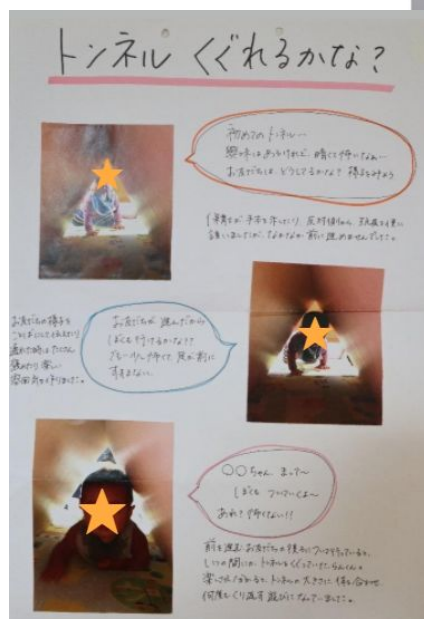
古森先生も、普段いろいろなクラスによく行っているつもりだったそうですが、ドキュメンテーションを通じて、まだまだ知らない子どもたちの姿があり、「この子はこういう遊びが好きなんだ」「こういうことができるんだね」ということが鮮やかに伝わってきたと、手ごたえを感じていらっしゃいました。

一研修参加後のプランは「継続して学びを深めるために園内協力者を増やしたい」

古森先生は、既に「往還型ドキュメンテーション研修」全4回にご参加いただき、修了していらっしゃいますが、今回の園内研修を皮切りに、これからも継続的に保育園で学びを深めていきたいとおっしゃいます。

今や古森先生以外にも、副主任の先生2名が「往還型ドキュメンテーション研修」に参加。

古森先生と3人チームになって、今後園内で更に展開していく予定だそうです。



図は、ルクミーみらい保育スクール「往還型ドキュメンテーション研修」に参加された先生が作られたドキュメンテーション

特集2:実践！ドキュメンテーション 「自分や子どもの成長を感じるのが醍醐味」東二番丁幼稚園の例

「ルクミードキュメンテーション」は、先生が撮った写真にコメントをつけて記録することができる、新登場のツールです。保育の一場面での小さな気づきや発見を「ヒトコマ」で残し、「ヒトコマ」をつなぎ合わせた学びのプロセスを「ストーリー」として束ね、ドキュメンテーションを作ることが可能に。個々の保育の振り返りばかりでなく、同僚との共有も気軽にできるようになりました。今回はその「ルクミードキュメンテーション」を東二番丁幼稚園で使っていただきました。



ご協力: 学校法人曾根学園 東二番丁幼稚園
(宮城県仙台市の私立幼稚園)
写真は、東二番丁幼稚園の玄関の様子。



菊地副園長先生に
お話を伺いました！

—Q. 普段の保育で、
ドキュメンテーションは
どのように活用されていますか？

A. 普段は上の写真のように、手書きで写真と子どもの様子をのせたドキュメンテーションをつくり、お迎えにきた保護者や子ども自身にもみえるよう、必ず通る下駄箱前玄関に貼っています。

それを見て、「今日こんなことやったんだよ！」という親子の対話が生まれています。

—Q. ドキュメンテーションを実践されて、保育者に変化はありますか？

A. 当園では、写真と保育者のコメントを残したシートを利用し、先輩保育者と若手が保育の振り返りをする「保育カンファレンス」を実施しています。それまでも振り返りは行っていましたが、写真を使った振り返りすることで、保育者同士の情報の共有がしやすくなりました。

作成して保育を振り返る過程で、写真から自分の担当するクラスの子どもの成長を見たり、感じ取ることができる。まさにこれが保育の手ごたえを感じていることで、保育者としての醍醐味になっていることが、保育者を見ても感じます。

ドキュメンテーションで可視化されることで、親子だけでなく、他のクラスの保育者にも、とても刺激になっています。ルクミードキュメンテーションを今回つかってみて、今後はこの保育カンファレンスに使えるなど可能性を感じました。

かけっこ練習☆

ちゅうりっぷ

はと



運動会に向けて、かけっこの練習をスタートしましたよ！



2021年08月26日

「は〜い！」



2021年08月26日

「よ〜い どん！」

お試しで
「ストーリー」を
使っていただき
ました！

《感想》

PCが得意でなく、苦手な職員からすれば、すぐに写真とコメントを入れられて、頑張らなくてもフォーマットに合わせてドキュメンテーションができるという作成画面はとても楽。「カンタン」に作成できるのはいいですね

《感想》

「遊び」を通してしてみると、「このヒトコマとヒトコマが繋がったじゃん」、という展開になることもあり、そういった気づきを得れることは素晴らしい。



保育者からの贈り物

地元の縁があった保育園にお姉ちゃんがお世話になり始めてから4年半。昨年度からは弟も入園し、兄弟で保育園に通っています。

園では、地元のお祭、保育参観、誕生日会等の比較的小さなイベントから発表会、運動会などの大きなイベントまで多くの保護者参加型の催し物を開催してくれます。園児と先生の一生懸命さが伝わってくる場面も多く、楽しみながら時には家庭外の世界での子どもたちの成長の姿を目の当たりにし、感動で涙が出てくるシーンも。思い出に残すために工夫して保護者による撮影タイム等も用意してくれます。



そんな日常がコロナ禍で一変。園でのイベントは限定的となり、昨年度は何とか運動会が行えたものの他のイベントは園児のみ、もしくは中止という事態に。しかし、そんななかでも保育の見える化を工夫してくださり、オペレッタや誕生日での発表などをYoutube限定公開でルクミーICTにURLを載せて送り、限られた環境の中で最大限子どもたちのリアルな様子を届けてくれました。そして、緊急事態宣言が明ければ3密を回避する工夫してイベントを徐々に再開。先日は下の子の誕生日会に参加して参りました。今年度はこのまま運動会→発表会→上の子の誕生日会→そして卒園式と無事にイベントが開催できることを祈ります。

リアルに勝るものはない、けど難しい時期や問題にはデジタルの力も借りて工夫してくださる。そんな、アナログとデジタルの良さ両面を持った子どもが通う保育園が私自身も大好きです。